



令和6年9月6日  
健康福祉部疾病対策課  
043-223-2574

## 感染症予防のための情報提供について

病名	レジオネラ症																						
住所	匝瑳市	年齢・性別	86歳・男性																				
職業	無職	症状等	発熱、咳嗽、呼吸困難、意識障害、肺炎、多臓器不全																				
発病年月日	令和6年8月23日	届出年月日	令和6年9月2日																				
<p>令和6年8月31日に旭市内の医療機関に入院し、9月2日に海匝保健所へ発生の届出があった患者が、同年9月2日に死亡した。</p> <p>〔患者発生の経過〕</p> <p>8月 23日 38℃程度の発熱</p> <p>8月 31日 症状が悪化したため、医療機関 A へ救急搬送 受診の結果、肺炎を引き起こしていたため、そのまま入院 抗菌薬による治療を開始</p> <p>9月 1日 医療機関での検査の結果、尿中からレジオネラ抗原が検出された</p> <p>9月 2日 海匝保健所へレジオネラ症の発生届出</p> <p>9月 2日 症状軽快せず、医療機関で死亡 死因：レジオネラ症による肺炎</p> <p>〔調査事項〕</p> <p>海匝保健所が調査を実施したが、感染源・感染経路等、原因の特定には至らなかった。</p> <p>〔県内の発生状況（レジオネラ症）〕</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>届出数</th> <th>R2年</th> <th>R3年</th> <th>R4年</th> <th>R5年</th> <th>R6年※</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>千葉県</td> <td>97</td> <td>84</td> <td>85</td> <td>95</td> <td>74</td> </tr> <tr> <td>全国</td> <td>2,031</td> <td>2,112</td> <td>2,129</td> <td>2,288</td> <td>1,384</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">※令和6年の千葉県は9月1日現在、全国は8月25日現在</p>						届出数	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年※	千葉県	97	84	85	95	74	全国	2,031	2,112	2,129	2,288	1,384
届出数	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年※																		
千葉県	97	84	85	95	74																		
全国	2,031	2,112	2,129	2,288	1,384																		
<p>（県民の皆様へ）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レジオネラ症の感染源となりうる冷却塔、循環式浴槽（24時間風呂・温泉利用施設・ジャグジー等）、循環式給湯、加湿器（超音波加湿器）の清掃、消毒など衛生的な管理を行い、菌の増殖を防止しましょう。</li> <li>適切な抗菌薬の投与により治療可能ですが、治療が遅れると重症化し、死亡することもあります。<u>有症状（発熱、咳等）が続く場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。</u>特に、喫煙者、透析患者、移植患者や免疫機能が低下している人はレジオネラ肺炎のリスクが高いとされていますのでご注意ください。</li> </ul>																							

## 【参考】

### レジオネラ症とは

レジオネラ属菌による細菌感染症で、主な病型は重症の肺炎を引き起こすレジオネラ肺炎(在郷軍人病)と一過性のポンティアック熱がある。通年発生するが、例年、特に7～10月頃に届出が多い傾向がある。

#### 1 感染経路

- 土壌、冷却塔水、プール、池、噴水、温泉水、24時間風呂に分布する病原体のエアロゾル吸入、誤嚥による経気管、気管支的感染
- 人から人への感染はないとされる

#### 2 病原体

- レジオネラ属菌、特にレジオネラ・ニューモフィラによることが多い

#### 3 潜伏期間

- レジオネラ肺炎の場合、2～10日（平均4～5日）
- ポンティアック熱の場合、1～2日（平均38時間）

#### 4 症状

- レジオネラ肺炎の場合、全身倦怠感、頭痛、食欲不振、筋肉痛、38℃以上の高熱、咳、喀痰、呼吸困難、中枢神経症状、下痢等
- ポンティアック熱の場合、発熱、悪寒、筋肉痛等  
(呼吸器症状は軽微)

#### 5 治療・予防

- レジオネラ肺炎の場合、マクロライド系やニューキノロン系等の抗菌薬で治療する。早期診断、早期治療が重要
- ポンティアック熱の場合、自然に軽快することが多く、抗菌薬なしでも数日以内に改善することが多い
- 予防のためのワクチンはない